

越境的な働き方

ー 『日本一おかしな公務員』が語るさまざまな境を越えた公務員の働き方ー

講師：内閣府 地域活性化伝道師 空き家プロジェクト nanoda 代表 山田 崇氏

日時：2020年11月12日(木) 18:00~20:00

場所：①愛知大学 名古屋キャンパス グローバルコンベンションホール

②Zoom によるライブ配信

講師紹介

長野県塩尻市の公務員として働きながら、2012年「空き家プロジェクトnanoda」を立ち上げる。内閣府地域活性化伝道師として各地の地域おこしの助言、指導を行う他、信州大学の地域連携研究員として、周辺自治体の若者との連携にも取り組む。「地域に飛び出す公務員アワード2013」大賞など受賞歴多数。著書「日本一おかしな公務員」日本経済新聞出版社(2019)。

講演内容

山田氏が塩尻市役所の公務員として働く傍ら、プライベートの時間を利用して実践した「空き家プロジェクトnanoda」など、越境している5つのテーマについて講演された。

まず、「空き家プロジェクトnanoda」を始めた際の自身の経験を振り返り、新しいことを始める際に有効な手法について述べられた。また、グッドデザイン賞を受賞した、地方創生協働リーダーシッププログラム「MICHIKARA」や、シビックイノベーション拠点「スナバ」などのこれまでの取り組みが紹介され、最新の活動として官民協働の実践型コミュニティ「塩尻C×OLab」や、全国の地方公務員が仮想市役所（オンライン投資型サロン）に集まり、官民連携により課題解決の方向性を模索する取り組み「市役所をハックする！」の運営など、意欲的な活動内容について紹介された。

また、当日はリアルタイムに会場およびオンライン参加者の声を反映させる「メンチメーター」が使用され、ひとりひとりの多様な声から気づきを得るという山田氏の理念が実践された。

当日の講演内容は愛知大学公式Youtubeおよびアシタシア公式サイトにオンデマンド動画としてアップロードしている。



図1 公演中の山田崇氏



図2 質疑応答の司会を務める法学部入江容子教授



図3 メンチメーター画面